

太田記念病院産婦人科の4月以降の診療体制について

太田記念病院産婦人科の診療内容について市民の皆さまに4月以降の状況を知っていただき、ご理解・ご協力を仰ぎたく、ここに筆をとりました。突然のことではありますが、現在いる常勤医5名のうち、指導医1名を含む3名が3月末を持って退職することとなりました。当院産婦人科は慶應義塾大学産婦人科より医師の派遣をうけており、今年4月から3名の派遣を受けることは決まっておりますが、うち1名は3ヶ月の短期での派遣なので実質2名の派遣となります。なお、この3名の医師はいずれも産婦人科専門医を取得するための研修中であり、このような状況を鑑み、大変心苦しいのですが4月以降の診療を縮小せざるを得ないとの結論に至ったことを報告させていただきます。以下、特に産科診療を中心に詳しく説明いたします。

当院産婦人科は東毛地区（太田市、邑楽郡5町、館林市）約40万の人口に対して、分娩と手術を取り扱うことのできる唯一の産婦人科です。さらに、NICU（新生児集中治療室）を6床備えた地域周産期母子医療センターとして早産（妊娠37週未満の分娩のことで、早産児に対しては小児科の先生による治療が必要です）、合併症妊娠（甲状腺・糖尿病などの内分泌疾患、高血圧などの循環器疾患、喘息などの呼吸器疾患を妊娠前から患っている方）、産科救急（分娩時の大量出血など）に対応しています。

お産は新しい命が生まれる瞬間を実感できる素晴らしいものですが、すべての方に幸せな瞬間が訪れるとは限りません。妊娠中に胎児に大きな奇形が見つかったり、分娩中に胎児の状態が悪くなったため緊急の帝王切開が必要となったり、分娩後に大量の出血をきたして輸血・集中治療が必要となったり、妊娠には常に予想できないリスクがあります。母体に合併症があったり、過去に早産を経験された方、高齢、肥満、双胎などの方はさらにリスクが高くなることが知られており、一般にハイリスク妊娠といわれています。開業医の先生で管理されている妊婦さんが、妊娠中・分娩中・分娩後に状態が急変した場合には当院で治療する必要があるため救急車で転院となることがあり、これを母体搬送といいます。当院産科はハイリスク妊娠の管理、母体搬送受け入れを使命としています。2019年の年間分娩数は約660件でした。多くの開業医の先生から信頼していただいております。東毛地区以外にも埼玉北部（熊谷市、深谷市、行田市）や足利市からも多数のハイリスク妊娠の方が紹介されてきます。一般に100件の分娩数につき常勤医1名が適正数とされているので、当院では6-7名の常勤医が必要なのです。

先に述べた4月以降の人員の減少により、当面分娩の制限をさせていただきます。具体的には当院で妊婦検診・分娩を行う方はハイリスク妊娠に限定いたします。当院は基本的には初診の方は紹介状を持参していただくこととなっておりますが、妊娠に関しては紹介状なしでも初診で受け付けておりました。しかし、妊娠についても紹介状の持参を必須とさせていただきます。自宅で妊娠反応が陽性となった方は、まず近隣で開業されている産婦人科を受診してください。診察された先生が、過去の妊娠・分娩の経緯や現在の状態を判断し、ハイリスク妊娠であると判断された場合は当科への紹介状を書いてくださいますので、紹介状を持って受診してください。過去に当院で分娩された方で再度当院での分娩を強く希望される方につきましても、申し訳ありませんがまずは開業の先生を受診していただき、リスクがないと判断された場合は開業の先生での分娩をお願いしたく存じます。このことについてはご不満もあるかと存じますが、もし妊娠・分娩中に問題があり開業の先生からの依頼があれば当院で対応いたします。リスクの高い妊婦さんや緊急事態に対応することが、限られた人員で当院の果たすべき役割であることをご理解いただきたく存じます。

また、当科は群馬県、太田市および近隣の町から地域周産期母子医療センターとして補助を受けております。栃木県、埼玉県とは医療圏が異なることから、当科で診る妊婦さんは群馬県にお住まいの方に限定させていただきます。栃木県、埼玉県にお住まいの方はそれぞれの県内に対応し

てもらえる病院があるはずなので、ご不明の場合は各自治体に問い合わせてください。なお、里帰り分娩については実家が太田市内の方で、ハイリスク妊娠（周産期センターでの分娩が望ましいと現在かかりつけの医師から判断された方）については当院で対応いたしますが、実際に診察した結果ハイリスクでないとお方で判断した方につきましては、市内の開業の先生方に紹介させていただくこともあります。

当科は子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣のう胞などの良性疾患から子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌などの悪性疾患まで幅広く対応しており手術件数が多いことも特徴です。特に腹腔鏡手術には注力しており、年間300件近い腹腔鏡手術を行ってきました。腹腔鏡手術は小さな傷で手術を行うため、特に女性の方には美容面で大きなメリットがあります。また、術後の痛みが開腹手術に比べて少ないため、術後の回復が早く入院期間が短くなります。一方、技術の習得には時間がかかります。次年度の体制では従来通りに手術を行うことが難しくなるため、当面手術枠を制限することとしました。その結果、手術までの待機が2-3ヶ月となることについてもご理解いただきたいと思います。

4月からは少ない人数で外来・分娩・手術に加えて当直業務を行なうこととなります。4名で毎日の当直を埋めるとなると、全員が週1回の当直を行うこととなります。適切な休息を得る為、土日の当直の大半は非常勤の先生に依頼することとなります。安心して任せられるように、過去に当院で勤務したことのある先生にお願いしています。また、慶應義塾大学から毎週木曜日の当直をお願いしています。見たことのない先生で不安に思われるかもしれませんが、当科の事情を何卒ご理解いただきたく存じます。

治療が終了した方や、病状が落ち着いており半年～1年に1回の経過観察のみとなった方や薬の継続処方につきましては、地域の開業の先生に診ていただくようにお勧めしています。これを病診連携といい、太田記念病院が推進している方針です。当科での継続した経過観察のご希望やご意見もあると存じますが、大きな方針に基づいていることをご理解ください。また、外来の負担を少なくすることで手術や分娩に注力することができます。限られたマンパワーを有効に使うためにも、何卒ご協力いただきたいと思います。

最後になりますが、当院産婦人科は東毛地区になくてもならないものであります。産婦人科を守っていくために我々は今後も尽力していく所存ですが、4月以降は危機的状態であることをご理解いただき、診療体制の縮小につきご協力お願い申し上げます。

2020年1月28日

SUBARU 健康保険組合太田記念病院
産婦人科部長 寺西 貴英